

ヒューマンメディア財団 情報誌「ヒューディア」

# HU-DiA

vol. 20  
Jun. 2011

2011年度 主要事業のご紹介

2010年度 主な活動実績

九州ヒューマンメディア創造センター スマートオフィス化構想





# 主要事業のご紹介

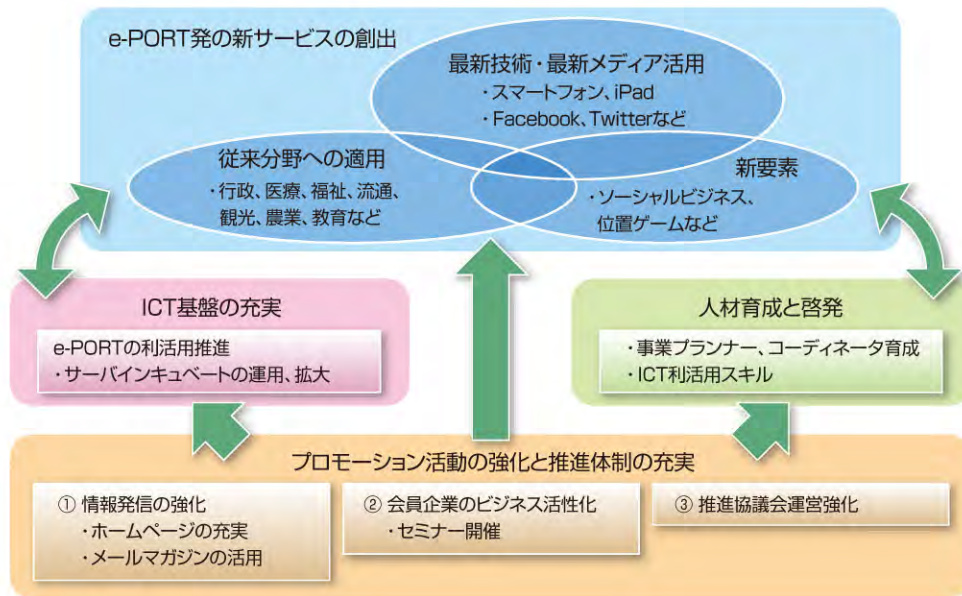
## 地域ICT基盤の整備・活用

### 北九州e-PORT(フェーズⅢの推進)

e-PORT構想の推進母体である「北九州e-PORT推進協議会」では、平成23年度から平成26年度の4年間でフェーズⅢと設定し、平成22年度にそのプランを策定し、今後e-PORTが取り組むべき方向性とその目標を明確にしました。

主な方向性は、「ICT基盤の充実」、「e-PORT発の新サービス創出」、「ICT活用のための人材育成と啓発活動」、「プロモーション活動の強化と推進体制の充実」の4つです。

具体的な取組みとしては、平成22年度から取り組んでいるサーバインキュベートの拡大による中小企業やITベンダーへのさらなる開発支援、ソーシャルビジネスを中心とした新サービスの創出のための検討会・勉強会及び具体的なビジネスプランの検討、事業をプランニングできる人材の育成、ホームページ・メルマガ・セミナー等の内容充実によるプロモーション強化を推進します。

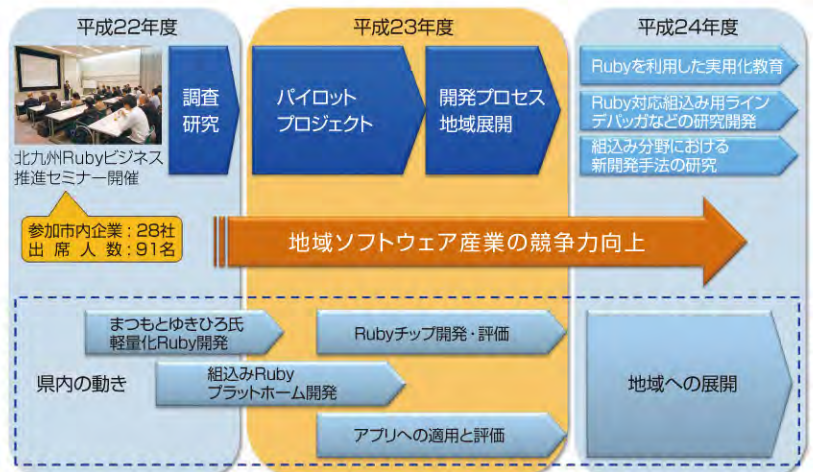


## 高度なICT人材を育成するサービスの提供

### 組込み向けRubyによる地域産業活性化事業

開発期間の短期化と機能の高度化への対応が容易とされているRubyの市内企業への導入を推進し、地場産業の競争力向上を図ります。

そのために、平成22年度に実施した「組込み分野を中心としたソフトウェア開発におけるRuby調査」の結果を踏まえ、Rubyによる制御系システムや iPhone・Androidアプリなどに関するパイロットシステムを構築し、その生産性を評価するとともに、その開発プロセスについてビジネスセミナーなどを通じて市内企業に公開いたします。





## 地域課題に対応したICTプロジェクトの提案・推進



### スマートオフィス化実証事業

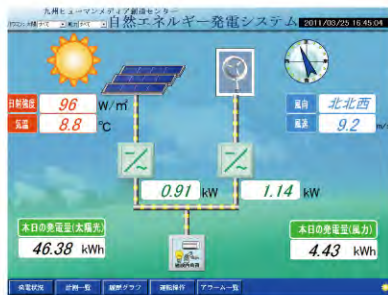
※詳細につきましては、最終(7)ページをご参照ください。

本事業は、昨年度に導入した再生可能エネルギーの見える化システムに消費エネルギーデータも統合させ、地域エネルギーマネジメントシステム(CEMS)に連携したビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)開発と運営実証に着手します。

また、本事業は経済産業省の「次世代エネルギー・社会システム実証事業」の補助を受け、実施します。

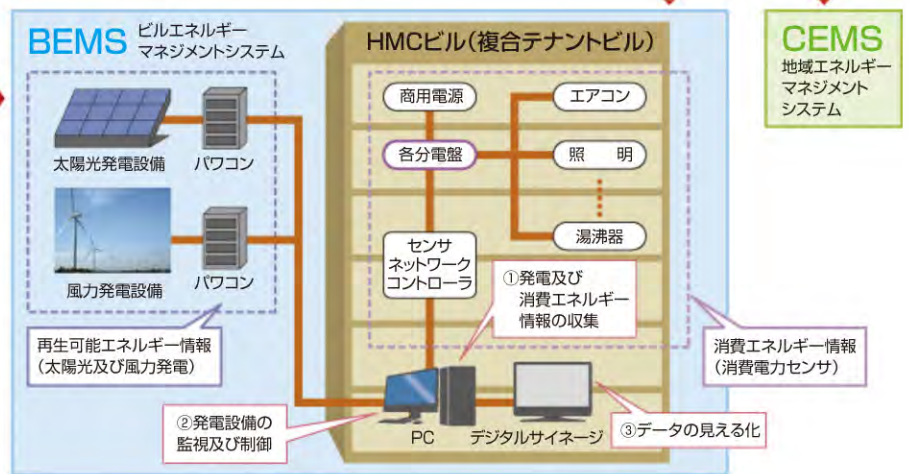
当財団ビルは複合テナントビルの特長を活かし、テナント参加型BEMSのあり方を検証するとともに、地域エネルギーマネジメント(CEMS)との連携における有効性を検討及び検証し、

標準インターフェース(平成22年度「地域エネルギーマネジメントシステムに関する標準化調査事業」にて作成された共通仕様書)を用いて、CEMSと連携を図り、当財団並びにテナントを含めた省エネや地域エネルギーの効率改善に貢献することを目的とします。



再生可能エネルギーの見える化  
太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの見える化システムを導入しました。

展開する



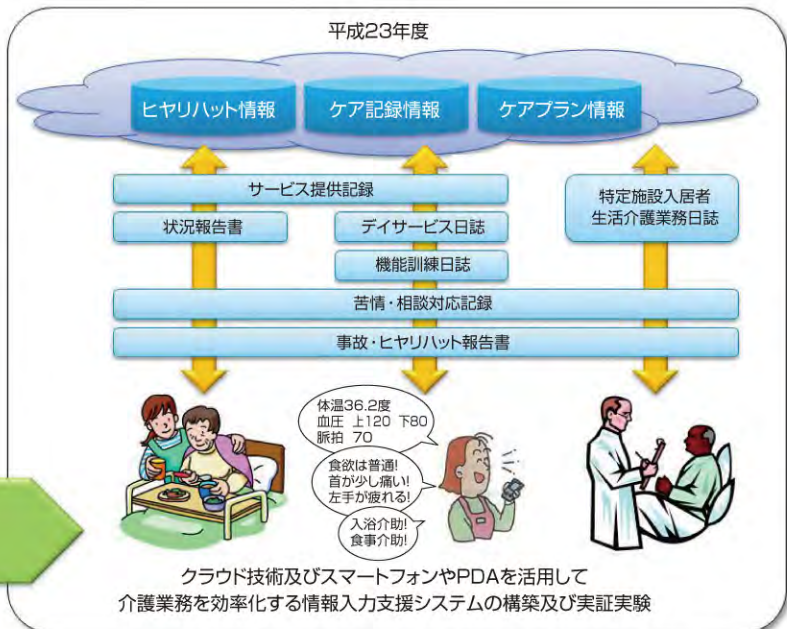
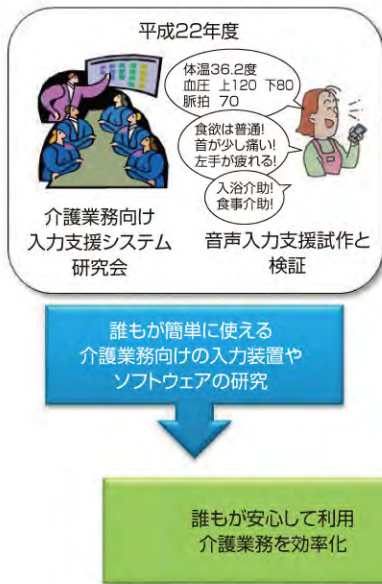
### 介護分野におけるICT活用事業

ICTを活用する介護事業向け入力支援システムなど、介護現場の負担軽減並びに福祉関係者間の情報を共有するシステムの構築を図り、安全・安心かつ快適な福祉社会の実現を目指します。

平成22年度の「介護業務向け入力支援システム研究会」及びプロトタイプ作成による成果を踏まえ、「クラウド技術及び

スマートフォン、PDAを活用して介護業務を効率化する情報入力支援システム」を構築し、介護事業者をフィールドとした実証実験を行います。

また、展示会で研究開発の成果を発表し、地域への展開を図るとともに、市内企業のビジネス拡大・参入を促進していきます。





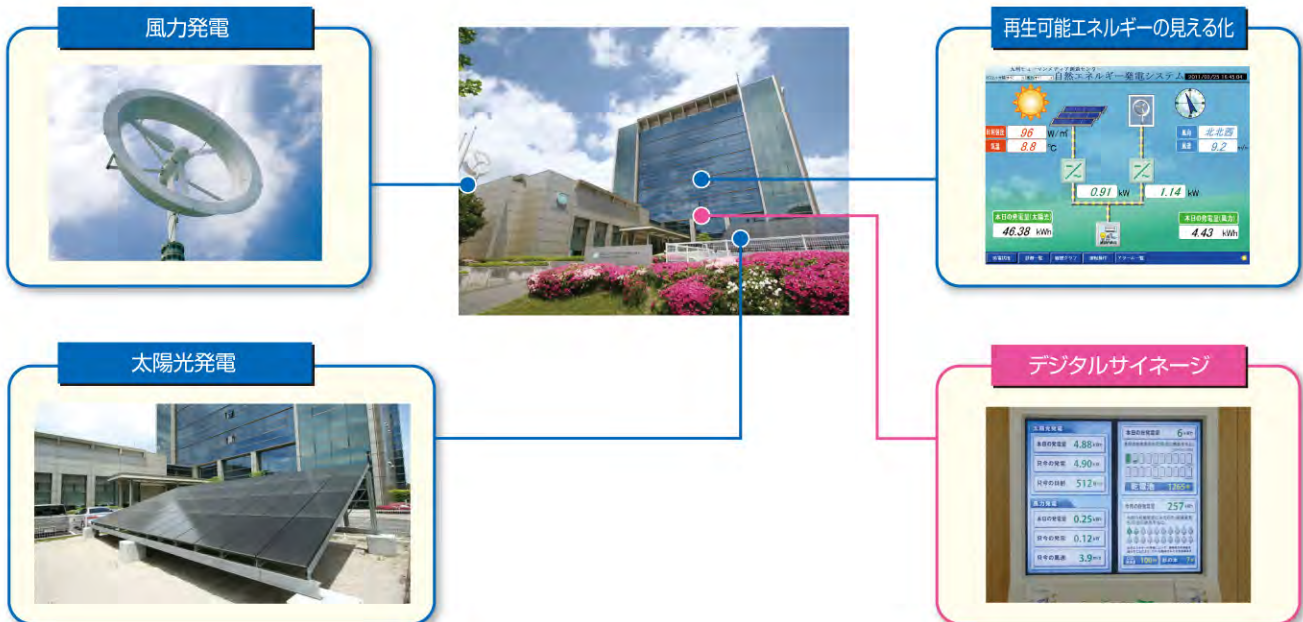
## ICTの地域課題への適用

### スマートビル化実証事業(H22年度報告)

本事業は、当財団ビルを先導的にスマート化することにより、理念の一つである「デジタルエコ社会」の実現に向けた先進的かつ具体的な取組みとして、省エネを推進するとともに、再生可能エネルギーを導入しました。再生可能エネルギーとして、太陽光発電設備(10kW)と風力発電設備(3kW)の2つの設備を導入しました。太陽光発電の導入では経済産業省が公募した「平成22年度地域新エネルギー等導入促進事業」の補助を受けて導入し、風力発電では風レンズ体の作用により、通常風車の2倍~5倍の

発電性能を持つと言われている(株)安川電機製風力発電システムを採用しました。

また、再生可能エネルギーの見える化システムの開発や「北九州スマートコミュニティ創造事業」の一環である市民や事業者が「考え」「参加する」きっかけとして、デジタルサイネージを導入し、テナントや来訪者に省エネを促し、低炭素社会の実現を推進する取組みを行いました。



### 福岡看護eラーニング研究会(FNET)の支援

看護師を対象としたeラーニングシステムの開発、供用を目的とするFNETの事務局として、eラーニングサービスの運営を支援しました。

平成22年7月には、地域の医療機関が共同で安価に利用できる使い勝手の良いサービスの仕組みが評価されて「第7回日本e-Learning大賞厚生労働大臣賞」を受賞したため、これを記念して、当財団のマルチメディアホールでシンポジウムを開催しました。

更なるサービス内容の充実を図るため、古武術介護(古武術を活用した介助)を紹介する動画コンテンツも制作しました。

また、今後の事業化を推進するため、予想市場規模や類似サービスに関する調査も実施しました。





## 地域ICT基盤の整備・活用

### e-PORT(サーバインキュベート)

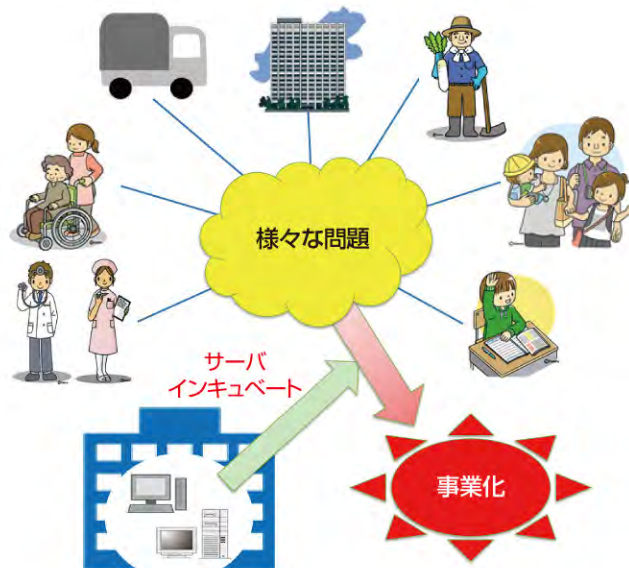
低炭素社会や高齢化への対応を始めとして、行政、医療、福祉、流通、観光、農業、教育等々、私たちの身の回りにある地域課題は様々あります。

それらの課題に対し、ICTを利活用して事業化を目指す中小企業等に、低廉な価格で設備(ハードウェア・ソフトウェア・ライセンス・機材等)を提供することで、起業・事業拡大・雇用創出の支援を行いました。

平成22年度は3社の事業を採択しました。

#### 【採択事業】

- ・ 成年後見業務システムの個人向けサービス
- ・ ERPシステム、POSシステムのクラウドサービス
- ・ 紙媒体の電子化データサービス



## 高度なICT人材を育成するサービスの提供

### IT大学校／高度人材育成事業

北九州地域の情報サービス系企業が既存の業務の高度化や新しい分野への取組みを促進するには、人材や技術の高度化が不可欠であるとの認識から、地域で活躍するIT人材の育成、

地域企業の中核を担う人材の実務能力向上を目的として、IT大学校、高度人材育成事業を開催しました。

全コース合わせて81名の方が受講しました。

#### IT大学校

##### プロジェクトマネジメント養成研修

- ・ プロジェクトマネジメント(基礎編)講座
- ・ プロジェクトマネジメント(基礎編フォローアップ)講座

##### データベース中核技術者養成研修

- ・ SQL技術講座
- ・ データベース設計講座
- ・ データベース運用管理講座



IT大学校開催風景

#### 北九州地区 ICT産業集積・活性化のための高度人材育成事業

##### プロジェクトマネジメント(応用編)研修

- ・ 問題・課題解決管理講座
- ・ 品質管理講座
- ・ 外部委託管理講座
- ・ プロジェクト計画・実行管理講座

##### ヒューマンスキル研修

- ・ コミュニケーション能力向上講座

### Rubyビジネス支援

北九州市におけるRubyビジネスの拡大と人材育成を推進することを趣旨として、「北九州Ruby ビジネス推進セミナー」や、Rubyビジネス・commonsが実施していた勉強会を、市内企業対象に開催しました。

また、Rubyをとりまく環境や動向に関する調査や、試作による他言語との生産性比較等を行い、開発業務におけるRubyの有効性を評価する調査を実施しました。



北九州Rubyビジネス推進セミナー開催風景



# デジタルクリエイターコンテスト2011(第5回)

地域のデジタルコンテンツクリエイターの発掘、コンテンツ産業の育成を目的として「北九州デジタルクリエイターコンテスト2011」を開催しました。

今回は審査委員長に中谷日出氏(NHK解説委員)、審査員にサンブラザ中野くん他を迎えて作品を募集しました。

平成22年11月16日(火)、西日本工業大学において記念講演会『未来をひらくデジタルコンテンツ』を開催しました。北九州ではなかなか聞けないデジタルコンテンツ業界の最新情報が150名の参加者に届けられました。また中谷日出氏のアバターがスクリーン上に現れ、声に合わせて動くデモ映像は学生の皆さんの興味を引きつけました。

「北九州市の魅力を再発見し、わがまち北九州を内外に発信する」という今回の募集テーマに寄せられた178点の作品は、3月5日の審査会で大賞を含む入賞作品15点、入選作品26点が選出されました。その審査模様をUSTREAMにて生中継公開しました。

入賞作品は4月11日～5月8日の期間、魚町ビジョン(連日1時間毎2回)で発表展示されました。

現在はWEB([www.kdcc2011.com](http://www.kdcc2011.com))で入賞入選作品を閲覧できます。

## 大賞

「TETSUO × TETSUCO」  
泉 優次郎



## News ヒューマンメディア財団からのお知らせ

### 貸室オフィスのご案内

#### ビル概要

竣 工	平成11年10月	建築構造	鉄骨造
延床面積	5,803㎡	昇降設備	エレベーター2基
階 数	地上7階	通信回線	電話回線、ビル電話回線 有

206号室



エントランス

#### 貸室情報 ※平成23年6月現在

空 室	205号室	206号室	312号室
面 積	61.38㎡	70.28㎡	65.16㎡
月額賃料単価	2,118円/㎡		
月額共益費単価	907円/㎡		
敷 金	月額賃料の12ヵ月分		
駐 車 場	5,000円/台/月		
設 備 等	照明設備、空調設備、100Vコンセント完備、天井高2.7m		
個別経費	電気料金については、実費を申し受けます。清掃費、照明用電球の取替等については、テナント様の負担となります。		
改 装 等	貸室内の改装、電話・インターネット等通信回線引込工事については、テナント様の負担となります。 ※ビル電話加入をお勧めします。		



# スマートオフィス化構想 (今後3年間の取組み)



当財団ビルが立地する北九州八幡東田地区では、多様な再生可能エネルギーの積極的な導入が既に行われており、街区内エネルギーのミニマム化が計画されています。当財団としても、基本理念の一つである「デジタルエコ社会」の実現に向け、昨年度から先進的かつ具体的な取組みを開始しました。(2010年度 主な活動実績ページ参照)

スマートオフィス化構想は以下のように大きく3つに分かれます。

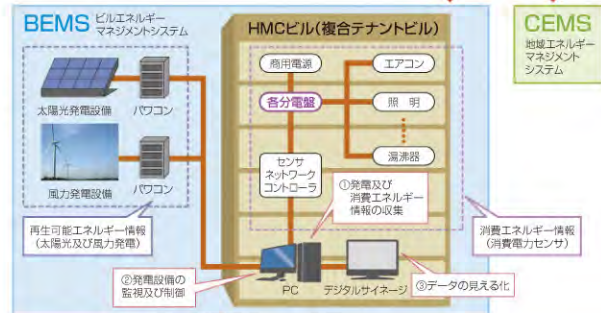
1. ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)の導入
2. ビル外のスマート化
3. ビル内のスマート化



スマートオフィス化構想では、新エネルギー導入強化、建設物・構造物の省エネシステム導入、ビルエネルギーマネジメントシステムによるビル内の省エネ及びエネルギー効率改善を図りつつ、ワークスタイル等により、標準的なオフィスビルと比較して、CO<sub>2</sub> 50%削減を目指します。

## 1. ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)の導入

太陽光や風力などの再生可能エネルギーの見える化システムに、ビル内の消費エネルギーデータを統合させ、ビル内の省エネやエネルギー効率改善を図りつつ、CEMS(地域エネルギーマネジメントシステム)と連携したBEMS開発に展開するとともに、運営実証を実施します。



## 2. ビル外のスマート化

ビル外へエネルギーマネジメントに必要な設備を導入し、ビルの省エネ及びエネルギー効率改善を図ります。



## 3. ビル内のスマート化

ビル内へエネルギーマネジメントに必要な設備を導入し、ビルの省エネ及びエネルギー効率改善を図ります。



**照明節電システム**  
人感センサやLED照明を用いて、オフィスに最適な照明節電システムを実証し、導入していく予定です。

## ビジネススタイル・ワークスタイルのスマート化支援



ビルのエネルギー情報をデジタルサイネージ等を使ってテナントや来訪者に見せることにより、省エネを喚起し、ビジネススタイルやワークスタイルの変革等の啓発活動を実施します。



**ダイナミックプライシング**  
電気料金単価を季節別、時間帯別に変化させることで、料金単価をトリガーに需要家の行動を変化させる仕組みです。

事業実施スケジュール	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
再生可能エネルギーの見える化の導入	再生可能エネルギーの見える化の導入			
小型風力発電設備の導入			スマートメータの導入	
太陽光発電設備の導入		蓄電池の検討と導入	屋上緑化の導入	
デジタルサイネージの導入		省エネ空調設備の検討と導入		
		電動バイクの試験導入	EV・急速充電器の検討と導入	

この事業の成果は、国内に数万棟あると言われる既存オフィスビルの大幅な省エネ、CO<sub>2</sub>削減に貢献するとともに、ICTを活用することによって実現するマネジメント手法をアジアを中心として全世界に展開することでわが国の成長戦略に貢献します。



## Members (五十音順、敬称略)

### 役員(14名) (2011年6月30日現在)

#### 理事長

高橋 孝司 財団法人九州ヒューマンメディア創造センター理事長

#### 理事

網岡 健司 新日本製鐵株式会社八幡製鐵所総務部開発企画グループ部長

石松 秀喜 北九州市産業経済局長

小倉 義人 東九州軸推進機構副会長

近藤 倫明 北九州市立大学学長

塚本 寛 北九州工業高等専門学校校長

津田 純嗣 株式会社安川電機取締役社長

利島 康司 北九州商工会議所会頭

松尾 新吾 社団法人九州経済連合会会長

松永 守央 九州工業大学学長

眞部 利應 九州電力株式会社代表取締役社長

保村 英幸 西日本電信電話株式会社北九州支店長

#### 監事

加藤 憲治 北九州市会計室長

丸尾 俊文 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社代表取締役社長

### 評議員(14名) (2011年6月30日現在)

伊藤 健二 TOTO株式会社代表取締役副社長執行役員

尾家 祐二 九州工業大学理事・副学長

尾野 徹 財団法人ハイパーネットワーク社会研究所顧問

久保田 勇夫 株式会社西日本シティ銀行取締役頭取

下川 徹 株式会社高田工業所取締役

庄司 裕一 北九州情報サービス産業振興協会会長

谷 正明 株式会社福岡銀行取締役頭取

谷村 秀彦 財団法人国際東アジア研究センター所長

塚元 憲郎 福岡県商工部長

東 敏昭 産業医科大学産業生態科学研究所作業関連疾患予防学研究室名誉教授

藤元 正二 福岡県工業技術センター所長

藤原 直捷 財団法人北九州国際技術協力協会常務理事兼事務局長

山崎 脛 公益財団法人北九州活性化協議会専務理事

山本 和徳 大分県商工労働部長

### 賛助会員(27団体) (2011年6月30日現在)

株式会社アクシス

株式会社エリアサービス

開発電子技術株式会社 九州支店

北九州商工会議所

新日鉄ソリューションズ株式会社

新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所

株式会社スピナ

セイコーエプソン株式会社 北九州オフィス

株式会社ゼンリンデータコム ソリューション事業部

ソニービジネスソリューション株式会社

ソフトバンクテレコム株式会社

株式会社ソルネット

データキューブ株式会社

TOTO株式会社

西日本コンピュータ株式会社

株式会社西日本シティ銀行 北九州総本部

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本電気株式会社 北九州支店

株式会社ビーフロント

ビズ・コレジオ株式会社

株式会社日立製作所 九州支社

富士通株式会社 九州支店

安川オピナス株式会社

安川情報システム株式会社

株式会社山口銀行 北九州本部

株式会社リンク

株式会社ワンビシアークイブズ 九州支店

## アクセス

### ヒューマンメディア財団 (財団法人九州ヒューマンメディア創造センター)

URL <http://www.human-media.or.jp/>

#### <総務企画部/総務課・企画課>

〒805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号  
TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

#### <地域ICTプロジェクト推進課(EMサイト)>

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号 AIMビル7F  
TEL 093-512-8007 FAX 093-511-0801

■JRの場合：JR八幡駅から徒歩5分

